

## メリとハリでつくり・作り・創り出す

### 1. 教育を考える一言

「時間がないんです。」 「いいえ、時間は、つくるんです。」

### 2. 背景

教職について1年目の放課後の職員室で、この言葉に出会いました。教育関係図書を訪問販売の方が、職員室にいるそれぞれの職員を個別に訪ねては、分厚い本やシリーズ本の購買を勧めていました。やらなければならないことが山積だった私は、どうせ買わない本の説明を聞くことや丁寧にお断りする時間をもったいないと思っていました。案の定私の所にもやってきました。

「時間がないんです。」という私の言葉に、年長の彼はちょっと首をかしげる仕草をしながら「先生、時間はつくるんですよ。」と何の抑揚も付けずさらりと応えました。

衝撃的な一言でした。内心つくれるものかとそのときは反発心を抱きました。けれど、いつの間にかこの言葉を自分に対しても、接する子どもたちに対しても幾度となく投げかけるようになっていました。振り返るともう35年の月日が過ぎつつあります。

### 3. 考察

世にはたくさんのことわざや名言が溢れていて、読んだり、聞いたり、見たりした時は、どれもなるほどとは思いますが、その場限りで持続しません。いつも思い出す言葉には、それと出合ったときの情景が伴います。そしてその後はまた、その言葉を思い浮かべたときの情景とも重なって、より鮮明に心に留まるようになるのです。

教職、研修、主婦業、子育て、親戚や地域とのおつきあい等々で疲弊していた私には、そのときそのときの自分自身を鼓舞する大切な言葉となりました。子育てが終わり、年を重ねて少々の度胸と図々しさが備わってきてもなお、いやそういう時だからこそ、大切にしたい言葉でもあります。自律した人生を持続させるためにも。

「宿題を忘れました。」「どうして？」「用事があったのでできなかったんです。」言い訳をする子どもたちに担任は尋ねます。「ご飯はちゃんと食べられた？」「はい。」「お風呂には入った？」「はい。」「夕べのテレビは何がおもしろかったの？」「えっと、〇〇が・・・」「ほうら、その時間があったじゃない。」その後続く言葉は決まっています。

「時間はつくるんです！」学校生活の中には「食っている」時間がそこかしこにあります。朝自習から朝の会に移る時間、休み時間から授業に移る時間、給食の手洗いと準備の時間等、隙間の時間でのダラダラ、グダグダはもったいないのです。さっさと済ませてその分を友達との楽しい会話だったり、文庫本を1ページ余計に読んだり、ちょっとズルだけれど宿題を先に一問だけでも解いてしまったりできるじゃないかと子どもたちにはっぱをかけることもしばしばありました。すると子どもたちは1年の内にめざましい変容を見せるようになるのです。

決して汲々とする必要はありません。もちろん、何もしない時間もまた大事な時間でもあります。「減り」と「張り」が大切なのです。「メリ」と「ハリ」が自在にできるようになったら、私の人生も今より充実するかしらと思いつつ、未だ初任者の時のあの情景を痛く思い出すこと、度々です。

### 引用参考文献

齋藤眞弓『道徳教育を軸としたドキュメント小学校4年生の学級経営』明治図書、1992年